

第9期 医療ジャーナリスト基礎講座

受講生募集

日本医学ジャーナリスト協会は、2019年度の「医療ジャーナリスト基礎講座」を2020年2月から3月にかけて、東京・内幸町の日本記者クラブを会場に計4回開講します。

巷にあふれる健康食品・美容情報や、増え続ける認知症患者。大きく変化する社会の中で、医療、健康、福祉をめぐるさまざまな課題がそのときどきで浮かび上がります。一つの事象でも、見る角度によって意味合いは異なります。事象を切り取り、伝えるためにジャーナリストには何が求められているのか。今回は、「時代を見る目、伝える力」を基調テーマに、下記のようなプログラムを企画しました。

第1回と第3回は、現役のジャーナリストが豊富な取材経験に基づき、それぞれ現代の食と健康の情報、認知症をめぐる諸問題をメインに語ります。第2回は、マスコミで使う日本語の基準取りまとめに携わってきた用語のプロが、「伝える」うえで大切な用語の極意を伝授。そして第4回は、「患者と向き合った医療」など常に社会を見据え、時代を先取りしてきた心臓外科医を講師にお願いしました。

各回の後半には受講生の皆様と講師の双方向による討議などのグループワークを設け、講座にふさわしい実践的な構成とします。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

NPO 法人日本医学ジャーナリスト協会



第9期 医療ジャーナリスト基礎講座 各回のテーマと内容構成

※敬称略 裏面に講師紹介。講師・内容を変更する場合がありますのでご了承ください。

日時(2020年)	テーマ	内 容	講 師	進 行
2月1日(土) 13時30分～ 16時30分	“食と健康”情報を フェイクニュースに しないための心得	<ul style="list-style-type: none"> ・食をめぐる健康・美容情報の現状と国の制度 ・健康食品、添加物、有害成分等のエビデンスをどのように確認するか ・近年の事例から学ぶ NG ニュース 	科学ジャーナリスト 松永和紀	 堂上昌幸 (当協会幹事)
2月8日(土) 13時30分～ 16時30分	医療情報の伝え方～ 配慮が必要な用語	<ul style="list-style-type: none"> ・「病院の言葉を分かりやすく」の提案 ・「正確さ・分かりやすさ」だけでは抜け落ちるもの ・「言い換え」を「言葉狩り」としないために 	日本新聞協会 用語専門委員 関根健一	 堂上昌幸 (当協会幹事)
2月22日(土) 13時30分～ 16時30分	『ルポ 希望の人びと ここまで来た認知症の 当事者発信』を書いて	<ul style="list-style-type: none"> ・26年前、「痴呆病棟」の取材から ・「進化」し「深化」する当事者の時代 (認知症の常識を変える、当事者発信の力) ・認知症をめぐる問題のほとんどは『人災』 	朝日新聞社記者 生井久美子	 三浦直美 (当協会幹事)
3月7日(土) 13時30分～ 16時30分	心臓外科医から見た 患者の心性と理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつ死ぬるか」の時代の治療選択 ——消費者行動学的視点 ・医療機関の企業化——テッパン医療と最先端医療 ・患者と医師の関係性——最適解はあるのか 	昭和大学横浜市 北部病院教授 南淵明宏	 大西正夫 (当協会理事)



■2月1日(土) 松永和紀(まつなが・わき) 科学ジャーナリスト

京都大学大学院農学研究科修士課程修了。毎日新聞で10年間記者生活を送った後、科学ジャーナリストに。食品の安全性や機能性、環境影響等を専門分野とする。著書に『効かない健康食品 危ない自然・天然』、『メディア・バイアス—あやしい健康情報とニセ科学』(いずれも光文社新書)、『食の安全と環境 「気分のエコ」にはだまされない』(日本評論社)など。弁護士、公認会計士らによる「第三者委員会報告書格付け委員会」委員。

■2月8日(土) 関根健一(せきね・けんいち) 日本新聞協会用語専門委員

1979年同志社大学法学部卒業、81年立教大学文学部卒業後、読売新聞社入社。同社校閲部次長、用語委員会幹事、編集委員などを務め、19年5月退社。現在は新聞協会用語専門委員、文化審議会国語分科会委員、大東文化大学非常勤講師(文章表現法)。著書に『なぜなに日本語』(三省堂)、『ちびまる子ちゃんの敬語教室』(集英社)、『病院の言葉を分かりやすく 工夫の提案』(共著、勁草書房)など。

■2月22日(土) 生井久美子(いくい・くみこ) 朝日新聞社記者

上智大学文学部卒。1981年、朝日新聞社入社、仙台支局、政治部を経て生活部などで医療、介護、福祉の現場を取材。編集委員などの後、夕刊企画班。『ルポ 希望のふもと』(朝日新聞出版)は17年度の日本医学ジャーナリスト協会特別賞を受賞。著書に『私の乳房を取らないで 患者が変える乳ガン治療』(三省堂)、『ゆびさきの宇宙 福島智・盲ろうを生きて』(岩波書店)、『付き添って ルポ老人介護の24時間』(朝日新聞出版)など多数。

■3月7日(土) 南淵明宏(なぶち・あきひろ) 昭和大学横浜市北部病院心臓血管外科教授

1983年、奈良県立医科大学卒業。国立循環器病センター、シドニー・セントビンセント病院、国立シンガポール大学病院での修練を経て、国内の民間病院で多数の心臓手術を手がけ、15年10月から現職。循環器センター長も。自由な立場の臨床医としての目線からの論評、著作、講演多数。医療機関個々の治療実績公表をメディアと共に実現した。近著に『医学部に来なさい!』(玄文社)、『病院で起こった不思議な出来事』(マキノ出版)。

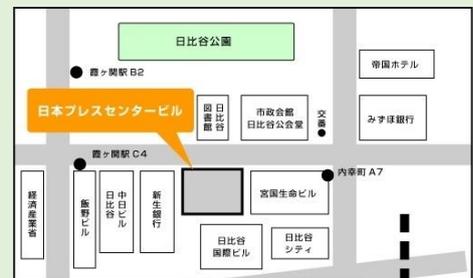
会 場：日本記者クラブ 日本プレスセンタービル9階会見場 ※2月8日のみ10階ホールC会議場
千代田線・日比谷線 霞ヶ関駅 C4 丸ノ内線 B2 都営三田線 内幸町駅 A7

開催日時：2020年2月1日、8日、22日、3月7日の土曜日13時30分～16時30分の全4回。

募集対象：医学医療保健福祉分野のジャーナリストやメディア関係者、医療職、企業・団体の広報や情報発信に携わる方、大学院を含む学生など。一般の方も歓迎します。

受講料：会員・学生 4回通し 8,000円；1回ずつ申し込み 各2,500円
非会員 4回通し 14,000円；1回ずつ申し込み 各4,000円

申し込み方法：定員40人。定員に達し次第締め切ります。お早めに！



◎4回通し申し込み：「4回通し受講希望」と明記のうえ、①郵便番号、②住所、③氏名、④職業、⑤電話番号、⑥本講座で学びたいこと知りたいこと、⑦本講座をどのように知ったか——を記入いただき、メールでお申し込みのうえ、受講料を1月24日までに受講料振り込み先にお振り込みください。入金確認後、受講証をメールにて発行します。

◎1回ずつ申し込み：「〇月〇日受講希望」と明記のうえ、上記①から⑦まで記入いただき、メールでお申し込みください。受講料は、当該回開講3日前の水曜日までに振り込みください。入金確認後、受講証をメールにて発行します。

申し込みアドレス：日本医学ジャーナリスト協会事務局 講座係 Mail: kouza2019@meja.jp

受講料振り込み先：三菱UFJ銀行 新橋支店 普通 3645491 口座名 日本医学ジャーナリスト協会